

「NO！」を叫ぼう

シリガラ

2011年5月11日、南モンゴルのシリングル草原で、草原の破壊に抗議する牧民メルゲン（35）を開発業者の関係者がトラックで故意に轢き殺すという殺人事件が起こった。これに対し、5月23日に地元（西ウジウムチン旗）の牧民たちは中国共産党政府に対し抗議活動を行い、4人が逮捕されたという。それにより、全南モンゴル人の怒りが巻き起こった。

5月25日にシリングル草原の中学生2000人が集まり、「モンゴル牧民を殺すな！」という横断幕を広げ、シリンホト（シリングル盟の政府機関所在地）で中国共産党政府に対する抗議デモ行進を行った。5月26日にフベート・シャル旗で学生・牧民による数百人の抗議活動が行われた。さらに5月30日、「内モンゴル自治区」の首都であるフフホト市で、中国共産党政府の環境破壊や人権弾圧に抗議するモンゴル人の盛大なデモ行進が行う予定があるということである。南モンゴルにおける抗議活動の反響は、海外の南モンゴル人たちにも広がっており、アメリカ、日本、モンゴル、ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、フランス、オランダの中国大使館の前で、5月30日に一斉に抗議活動が計画されている。在日モンゴル人たちは5月30日13時に東京の中華人民共和国駐日大使館の前で抗議活動を行う予定だ。

中国共産党政府の露天掘り式採掘による資源略奪と草原の破壊、またこれに抗議するモンゴル人への人権弾圧は「内モンゴル自治区」の東端フルンポイル草原から西端アラシャンのゴビまで存在していないところはない。これは1950年代から絶え間なく続けられている。それに対し、草原を保護し生存権を守るためのモンゴル人の反抗も一日も停止しなかったのだが、今回の抗議活動は1981年に行った中国共産党の移民政策を抗議した学生運動以来、30年ぶりの大規模なものとなった。

私たちがモンゴル人として生まれたことには何の罪もない。この地球に存在するあらゆる人々と平等であるはずだ。強権的な政府に弾圧され、異民族に圧迫され、勝手に殺されるために生まれたのではない。人類の生存基盤であるこの地球を守るために、聖なるモンゴル草原を守る責任を持ちながらこの草原にモンゴル人として生まれたのである。

だが、モンゴル人は人間としての権利を守ろうとするだけで彼らに監禁され、拷問され、殴り殺され、轢き殺される。一体なぜだろう？

1947年に中国共産党は、現在の「内モンゴル自治区」という傀儡政府を作った。その2年も前に成立していたモンゴル人政権である「東モンゴル自治政府」や「内モンゴル自治共和国」を武力的に廃止して設立したのだ。これは、今日の悲惨な現状を作り出し、モンゴル人を絶滅させる中国共産党の目的があったのだろう。

1891年に南モンゴルの東部のジョスト、ジョオダ盟で「金丹道暴動」が発生し、このとき侵入してきた中国人の「金丹道」という邪教組織は17万人ものモンゴル人を殺害した。これを中国共産党は「正義の農民蜂起」と評価している。日本が敗戦した1945年の後、中国共産党はソ連共産党の支

持の下、南モンゴルへ侵入し始めた。モンゴル民族にも自主自決の権利があると言いながら、中国共産党はモンゴル人の権力者や知識人たちを殺害し、モンゴル人の政権や政党を消滅させてモンゴル人の自決権を剥奪したのである。1949年に国民党を倒して政権を手に入れたにも関わらず、中国共産党は恐怖や殺戮を全国的に繰り広げ、南モンゴルを完全に植民地として支配したのである。さらには1960年代から1970年代にかけて「文化大革命」を引き起こし、モンゴル人を10万人以上も虐殺した。それほど大きな罪を犯した中国共産党はモンゴル人に謝る気配もないのである。

中国共産党は強大な武力を用いて隣接の国々、チベットやウイグルや南モンゴルを侵略し自らの植民地にして、この植民地の人々を「国内の遅れている少数民族」と蔑視し、民族浄化のために残酷な「馴化」を行っている。また、爆発的人口増加や歪んだ経済発展により発生した深刻な環境問題とエネルギー問題を解決するために、国外には国際支援を要求し、国内では「少数民族地域」への人口移住や資源略奪を加速している。このような非人道的行為を中国共産党は「国家発展政策」と位置づけて国民を騙し、国民の財産や生命を奪っている。

「内モンゴル自治区」では、モンゴル人たちは自分の土地で自分の政権や政党を有することができないのは言うまでもないが、自由に生きていく権利さえなくされている。モンゴル人の政治、経済、文化、それどころか生存や言論の権利さえ中国人共産党員に握られているのが現状である。その中で、「少数民族幹部の育成」や「民族企業家の育成」の名目でモンゴル人の裏切り者を作り出し、モンゴル人の手を利用してモンゴル草原を破壊させ、モンゴル民族を絶滅させる戦略を採っている。このまま続くと南モンゴル草原全域は砂漠になるか大きな廃墟になることは間違いないし、草原の壊滅という罪を背負いながら南モンゴル人たちが消滅するのも間違いないだろう。

民族滅亡の危機に追い込まれたモンゴル人たちは何かを考えるべきだ。千年来、モンゴル人の祖先たちは侵略者の蹂躪からこの草原を守るために命をかけて戦ってきた。これは子孫たちが自分の土地で主人となって幸せに生きて行けるためではないか。実際、シリングル草原の十代の子供たちさえ、巨大な脅威に臆することなく勇気を出し、支配者に対して「No!」と叫んでいるのではないか（実際の映像を見て私は本当に泣き出してしまった）。

私たちは彼らを怖がって、モンゴル人の殺害を続けさせてしまうのか。それでも男か？ 中国共産党からの「冊封」を望み、モンゴル人同胞の血が付いている「人民元」を物乞いするのか。それでも人間か？ 5月30日、世界中のモンゴル人が立ち上がり、「人権尊重」と「環境保護」を主旨とした中国共産党政府に対する抗議活動を行う。私もモンゴル人として絶対に参加する決心をした。

僕もモンゴル人の母の乳で育ち、モンゴル草原の恩恵に恵まれて大人になったのである。人間として、愛する故郷のために、大切な人権のために、一回だけでも強権に対し「NO！」を叫ぼう。